高岡市地域公共交通計画の評価指標の進捗状況について

資料１－２

【基本方針１】
都市の成長を高める広域交通体系の構築

■計画目標：新高岡駅・高岡駅の利用者数の増加
（広域交通拠点としての機能の充実、利便性の向上を目指す。）

■評価指標①：新高岡駅・高岡駅の利用者数
（新高岡駅・高岡駅の１日あたりの乗客数の合計）

令和４年度（従前値）	令和５年度（現状値）	令和10年度（目標値）
10,243人/日	10,900人/日（6％増）	13,000人/日

昨年度は、新型コロナ５類移行後、旅行需要や外出機会が回復傾向にあり、新高岡駅・高岡駅の利用者は１日当たり約650人増加した。北陸新幹線金沢～敦賀間開業以降も月別の利用状況は継続して前年を上回っており、新高岡駅の更なる利用促進に向け、誘客・送客に取り組むとともに、鉄軌道間の接続性の向上や城端線の増便試行の継続など、引き続き、両駅の利便性向上を図っていく。

【基本方針２】
交通資源のフル活用による市内の移動利便性の確保

■計画目標：公共交通不便地域の解消
（市内の交通資源をフル活用し、市域全体の移動利便性の確保を目指す。）

■評価指標②：公共交通不便地域の割合
（本市全区域の居住地面積に対し、20人/ha以上の人口集積があり、かつ１時間当たり１本程度の運行頻度の公共交通圏域に入っていない区域面積の割合）

令和４年度（従前値）	令和６年度 ※見込み（現状値）	令和10年度（目標値）
9.2％	6.8％（2.4ﾎﾟｲﾝﾄ縮小）	5.0％

令和５年度は中田地区、６年度は野村・木津地区において、市民協働型地域交通システムの本格運行が始まり、公共交通不便地域の割合は2.4％減少した。今後も、市民協働型地域交通システムの導入エリアの拡大に向けて、地域が取組むニーズ調査や実証運行等、段階に応じた支援を行いながら、市民の移動利便性の確保と交通不便地域の改善に取り組む。

【基本方針３】
交通DX推進等によるサービス水準の向上と安全・安心な交通環境の維持

■計画目標：公共交通利用者の満足度の向上
（交通DXの推進等によるサービスの拡充や、駅・車両等の利用環境の維持・改善により、快適で、安全・安心な公共交通の利用を目指す。

■評価指標③：公共交通利用者の満足度
（市民アンケート調査等における市内公共交通利用者の満足度）

令和４年度（従前値）	令和６年度（現状値）	令和10年度（目標値）
2.78	2.77（0.01ﾎﾟｲﾝﾄ減）	3.50

10月に実施した「地域公共交通に関するアンケート調査」において、公共交通利用者の満足度は、前回調査とほぼ同程度であった。デジタル技術を活用した交通情報の提供にも引き続き取り組みながら、交通系ＩＣカードの導入による利便性向上など、公共交通に対する満足度の向上を図っていく。

【ＩＣカード】万葉線　　：Ｒ６.9から導入
城端線・氷見線：Ｒ７年度中に導入予定

【基本方針４】
生活の中で公共交通を利用するライフスタイルの普及・浸透

■計画目標：市民１人当たりの公共交通利用回数の増加
（モビリティ・マネジメントの推進や生活の中で公共交通を利用する取組みの展開により、過度に自家用車に依存するライフスタイルからの転換を目指す）

■評価指標④：市民１人当たりの公共交通利用回数
（公共交通利用者数を本市の人口で割り返した数値）

令和４年度（従前値）	令和５年度（現状値）	令和10年度（目標値）
42.2回/年	45.5回/年（3.3回増）	52.0回/年

昨年度の市民１人当たりの公共交通利用回数は、前回よりも3.3回/年増となった。新型コロナが５類に移行したこともあり、一定程度、公共交通の利用が回復したものと考えられる。引き続き、幼少期から公共交通の大切さや魅力に触れる機会の提供、ノーマイカー運動、パーク＆ライド等、市民が生活の中で公共交通を取り入れるための意識醸成に取り組んでいく。